

まちてん 2017 持続可能なまちづくり宣言

日本のよいものを「クールジャパン」として掘り起こし、「インバウンド」の皆様にも訴え、「レガシー」として次世代に残していくことが求められている。そのため、世界的視野に立って、世界の持続可能性の共通言語である「持続可能な開発目標」(SDGs)を活用し、関係者が連携して地域課題を解決していく。「まちてん」を協働で新たな価値を生む「協創力」を発揮するためのプラットフォームとして育て、新たな地方創生まちづくりを目指す。

「日本のまちに光をあてる」をテーマにした「まちてん 2017」にあたり、活動指針としてこの宣言を発信する。

1、地方創生まちづくりに「持続可能な開発目標」(SDGs)を活用する。

SDGsの各目標との関連付けを意識し、地方創生SDGsを推進。特に、目標11「住み続けられるまちづくり」や目標17「パートナーシップ」を念頭に、これらの目標に貢献。

1、「まちてん」を地方の「稼ぐ力」をつけ「ライフスタイルの創出」に結び付ける「学び」の優良事例の共有の場となることを目指す。

企業の本業力を活かす共有価値の創造(CSV)の考え方で、関係者と協働して地方創生のビジネスモデルを構築。

1、新たな連携・協働の形を探るオープンイノベーションの場として「まちてん」を活かす。

まちづくりを担う自治体、企業、大学、社会起業家たちが新たな連携・協働の形を探る場として位置づけ。

1、センス・オブ・プレイス(まちの個性)とシビック・プライド(市民の誇り)を重視する。

これらを担う人にも焦点をあて、地方創生ひとづくりの交流のフォーラムとして活用。

1、関係機関との連携を強化する。

「まちてん」に後援名義をいただいている関係省庁や関係機関、登壇者各位などと連携。

※SDGs「持続可能な開発目標」とは…

2015年9月に国連で採択された2030年に向けた17の目標と169のターゲットからなる目標。

この目標実現のために、先進国・途上国を問わず、政府・関係機関・自治体・企業・NPOなど、すべての関係者による行動が求められている。



平成 29 年 11 月 1 日

実行委員長 笹谷 秀光

まちてん 2017 実行委員会 一同